

自分の言葉で表現する子（3・4年複式学習）

～保育所との交流を通して～

第3・4学年の実践

はじめに

3年生3名・4年生4名の複式学級である。日頃から読書を好み、自然に豊かな表現を身に付けている子がいる一方で、あまり活字を好まず、教科書の文章を読んでもなかなか意味をつかむことができない子もいる。そこで今回の学習では「保育所の子に伝える」という目的をもち、進んで文章を読み取り自分の言葉で表現する楽しさを味わってほしいと考えた。

1 単元名 **保育所の子に伝えよう！チャレンジャーニュース** 「あいの行列(3年)」「かむことのカ(4年)」

2 単元の目標

段落やまとまりに注意しながら読み、読み取った内容を保育所の子に分かりやすく説明する。

3 単元について

どちらの学年も説明文単元である。3年生の教材「あいの行列」は、身近な生き物の秘密を、4年生の教材「かむことのカ」は、新たな視点で自分自身の体や生活を説明している。このことから子どもたちは興味をもって学習に取り組むことができると考えた。また、どちらの教材も典型的な説明文の構成で書かれていることから、段落のつながりを意識しやすい教材だと言える。

4 読む力を付けるための手立て

①目的意識をもたせる取組

「学習したことを、保育所の子たちに教えてあげよう」という目的をもち、学習を進めた。教科書の文のままでは小さい子たちには難しすぎるため、難語句は分かりやすい言葉にする必要がある。明確な相手意識をもたせることにより教材をよみこなし、より分かりやすく表現しようという意識が高まると考えた。

②動作化・操作活動を取り入れた読み取り

読み取りの際、動作化を取り入れたたり、あいのペープサートや歯の模型を使ったりすることにより、内容が理解しやすくなると考えた。また、保育所での発表時に、それら进行操作し、小さい子たちにも分かりやすく伝えることができると考えた。

5 指導の実際

単元のゴールの設定

発表が大好きな7名は、前単元で低学年に音読発表をした。今回は保育所の子に向けて発表したいという願いをもち、それを単元のゴールと設定した。そのために「①書いてある内容を正確に理解すること②分かったことを小さな子にも分かるような簡単な言葉に直すこと」に力を入れ、学習を進めた。

操作活動を取り入れた読み取り

3年生「あいの行列」では、ペープサートを使って読み取りを行った。文章に合わせてペープサート进行操作することにより実験の内容や結果について理解を深めることができた。特に時間の経過を表す「しばらくすると」「やがて」などの言葉に着目し、「まだあいは列を作



あいは、おしいから特別な
においを出しています！
(3年生の発表より)

